

様式 4

平成 26 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

学校長 足 立 一 穂

評 価 日	平成 27 年 2 月 2 日 (月)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
	<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p><学校祭の開催について></p> <p>生徒会主催行事ということで、生徒の主体性をうまく引き出しながら取り組んでいた。大きなイベントで得るものは大きかったと思うが、生徒の変容はどうだったかを整理し、来年度へつなげて欲しい。</p> <p><あいさつについて></p> <p>1 年生より 2 年生が良くできており、2 年間の指導の成果は感じられる。あいさつをしようと声をかけるだけでなく、なぜできないのか見極め、丁寧に指導することも必要。マイスター制度の活用なども考えられる。保護者の意識も高めなければならない。</p> <p><生徒指導について></p> <p>アンケート結果でもいじめ、からかいがあるという回答が見られる。少人数のメリットをいかし、早期の情報共有・対策がうてるよう、校内の連携体制の強化、学校と保護者との課題の共有ができるようすること。</p> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>キャリア教育推進のための取り組みや専門教科の地域貢献いきいきプロジェクトなど、積極的に校外に出かけて活動することで、生徒がたくましく成長していることを感じる。続けて取り組んで欲しい。</p> <p>3. 取組改善のための提言</p> <p>自己評価が C となっている項目について、その背景や要因についてしっかり分析して改善方策をたてること。</p> <p>各分掌の横の連携・協力の体制強化をし、早期に情報共有し、対応できるように。様々な角度から見るなどして、個に応じた対応の工夫ができるとよい。</p>	<p>・生徒の変容と行事のバランスを考えながら来年度の取り組み内容を検討する。</p> <p>・指導方法について再度見直し、徹底を図る。</p> <p>・家庭の役割も整理し、保護者への働きかけも行えるよう検討する。</p> <p>・連携体制、個々への指導のあり方については随時見直しを行ってきた。今後も引き続き取組の評価・検討を行う。</p> <p>・来年度も継続予定。少しずつ内容が広げられるように工夫する。</p> <p>・評価の低い内容について、しっかり分析し継続して取り組む。また、平成 27 年度は 3 学年が揃う年でもあり、校内組織の強化を図りたい。</p>